

能動的な水素と
受動的な水素

エニアグラムとは、円周を9等分して作図される特定の象徴図形です。円周状の9つの分割点に1から9までの番号を振り、3-6-9の点を結んで正三角形を描き、さらに1-4-2-8-5-7の点を直線で結んで描いた図形です（P.95図参照）。このエニアグラムに、身体、感情、思考の3つのオクターブとゲルジエフの水素を配置すると、食物水素エニアグラムとなります。ゲルジエフの水素は、あらゆるものを振動・物質密度で分類し、能動、受動、中和の総合数がHで表現されず。思考や感情も物質として分類されます。

身体オクターブは9の下768、感情オクターブは3の下192、思考オクターブは6の下48で始まり、各オクターブのミとファの間と、シとドの間が半音となり、オクターブの欠損部分となります。異なる領域にある2つの世界を結ぶ干渉地点をインタールバルと言い、3は身体と感情の干渉（呼吸ショック）、6は感情と思考の干渉（印象ショック）です。

水素には自燈明と法燈明の2系列があり、自分で考え決断する、自発的、独立的、積極的なH1↓H6↓H24↓H96↓H384↓H1536

☆ 覚醒エッセイ
形而上的教えから
悟り意識を探る



文◎松瀬 観翁
Kanou Matsuse

1985年、金沢医科大学卒業。松瀬医院院長。2015年より自戒の意味を込め、医院のホームページ「クリニック便り」の「恩寵の扉」に、長年書きためていた参考文献の要約文を掲載中。思考機能不全症候群からの出口を模索し、心の健康相談や人生相談に「気づき」として応用している。
<http://www.matsuse-iin.com>

（自燈明）と、經典に依存したり他に委ねたりする、依存的、伝達的、受動的なH3↓H12↓H48↓H192↓H768↓H3072（法燈明）の2系列があります。H96以下が認知できる物質で、H48以上は思考や感情でしか感じることができません。番号が小さいほど振動密度が高く高次元となり、大きいほど物質密度が高く物質的な姿をしています（P.95表参照）。

2つ下のものを素材に（対象化）してひとつ下のものを生むため（能動↓受動↓中和）、ひとつ上のものに懂れ、ひとつ下のものは対象化できずのみ込まれてしまいます。そのため、上昇オクターブである食物水素エニアグラムは、創造の連鎖である下降オクターブの逆回しとなるのです。

ひとつの次元において、陰陽が一体化して中和するとその次元からは消失し、中和の結果であるゼロはその次元から見ると無となり、上の次元へと繰り上がります。そして、繰り上がったゼロは、上の次元では陰として組み込まれ、能動（陽）↓受動（陰）↓中和（ゼロ）となります（生命の樹の原理）。各次元においては、陰陽化されたものだけを見ることのできるのです。これは、インタールバルで葛藤を体験するときに威力を発揮するといえます。ここで、「御者、馬、馬車」という有名な例

題を示します。知っているのは誰なのか、考えてみてください。

ある秘教の教えでは、人間という存在を1台の馬車に例えています。馬車が肉体で、馬が感情、御者が思考です。この馬車で注目すべきことはただひとつ。馬車の主人は眠っているため、御者はどこを目指せばいいのかわかりません。また、馬は御者によるコントロールがなければ暴走してしまう動物です。主人が眠っているからと御者が行き先を勝手に判断したら、御者の迷走となってしまいうでしょう。

さて、あなたはどうか考えましたか？ ある人は、社会通念から来る思考を主人だと思っていることでしょうか。またある人は、感情が主人だと思ってしまう。そして、肉体が主人だと思っている人もいます。皆、これで良いと思っています。皆、これで良いと思っています。眠っている主人が目を見まじ行く場所を告げれば万事うまくいくのですが、どうすれば主人は目を覚ますのでしょうか。

私たちの本質は、法燈明である馬48です。馬48は、自燈明である馬96を対象化することができません。馬48が対象化できるのは法燈明である空間192であり、自燈明の御者24もまた自燈明である馬96を対象化することができます。自燈明である御者24がいる限り、馬48（法燈明）と馬車96（自燈明）はつながる

ことができませんが、御者24がいないと馬48は馬車96とつながることができないのです。すなわち、創造の連鎖でつながることのできる水素は同じ系列の水素だけです。同じ仲間がいるとつながれ、いないとつながれません。

悟り意識は 苦悩を対象化する

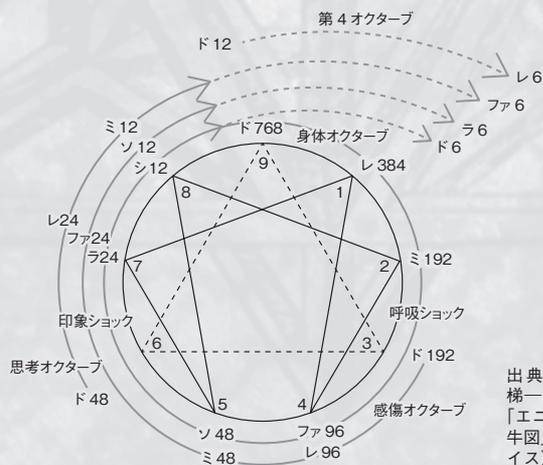
自己修練は、御者24から始めます。能動24は、受動96を素材にして中和48を生み（H24↓H96↓H48）、24が安定するためには多くの48が必要となるのです。さらに多くの48と少しでも12があるならば、能動12は受動48を素材にして中和24を生むことができ（H12↓H48↓H24）、12が安定するためには多くの24が必要となります。24は、足りないといひとつ下の48にのみ込まれてしまい、能動48は受動192を素材にして中和96を生みます（H48↓H192↓H96）。したがって、人間の知性は、苦悩にのみ込まれるのです。

私たちは、行為者ではなく、ひとつの出来事をただ見ている者であり、本来の自己は正誤の判断をしません。思考にとにかく言う権利はなく、あるがままの受容しかないので。しかし、エゴは悪い出来事は排除できると錯覚し、感情を抑圧し、思考と同一化することで苦悩は延々

物質的現実とは、プロジェクション・マッピングである。外界の現実投影されるものを変えるには、自分の意識を変えなくてはならない。医師でノンデュアリティも研究している松瀬氏に、意識変革をするための思考のプロセスについてご寄稿いただいた。

第1回 水素の上昇と下降

食物水素エニアグラム



出典：『意識の10の階梯—意識進化の羅針盤「エニアグラム」と「十牛図」』松村 潔 著（ヴォイス）より一部改変。

各水素の概要と創造の連鎖

H1	宇宙意識、絶対、自燈明
H6	高次思考（大天使）、メンタル体、知性、自燈明
H12	高次感情（小天使）、象徴、集合無意識、主人、法燈明
H24	悟り意識、動作本能、思考に気づいている意識、アストラル体、御者、自燈明
H48	通常の思考、人間の知性、物質界、馬、法燈明
H96	抑圧感情（苦悩、孤立、否定、嫉妬、エゴ）エーテル体、光、馬車、自燈明
H192	空間、法燈明
H384	水、自燈明
H768	食物、法燈明
H1536	樹木、自燈明
H3072	金属、法燈明

と続くのです。悟り意識が苦悩に降臨する（H24↓H96↓H48）には、否定的な状況の中でも肯定的なものを見つけ、解決の道筋を創ることです。その際に注意すべき点は、思考に気づいている意識（H24）が対象化できるのは通常の思考（H48）ではなく、抑圧感情（H96）であることです。真に我が身に降りかかることは、すべてこれ天意であり、苦悩こそが恩寵。なのかもしれません。大いなる何かに自己を明け渡したとき、いま

ここに恩寵の扉が開くのです。

【参考文献】
『問題は解決するな「スロ」』著/ヴォイス
『意識の10の階梯—意識進化の羅針盤「エニアグラム」と「十牛図」』松村 潔 著/ヴォイス
『エーテル体に目覚める本—スピリチュアル・パワーを呼び込む』松村 潔 著/アールズ
『水晶透視ができる本 完全解説』松村 潔 著/説話社
『StarPeople Vol.36』「特集 人は恩寵なしには生きられないのか」ナチュラリスピリット
『誰でも「悟り」プロジェクト 意識の中心みつけた！』やまがみてるおブログ (<http://oyanagamiteru.blog.fc2.com/>)